令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 柏崎 小学校 ）　　学校番号　９０　　【様式】

目指す学校像	「学びを楽しみ、共に学び合うかしわ子」の育成を目指して

重点目標	
	１　児童が生き生きと学ぶ学校（学びを支える基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と協働的な学びの充実） ２　安心・安全が保障される学校（教育相談体制の充実、安全教育、安全管理の徹底） ３　学校・家庭・地域が連携・協働する学校（コミュニティ・スクール等の機能の有効活用） ４　職員が常に学び続け、チームワークがある学校（学び合い高め合う組織の構築）

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国・埼玉県平均より大きく下回っている。「思考力・判断力・表現力」に大きな課題があり、記述式の問題では無回答率が全国・埼玉県平均より１０ポイント以上高い。漢字の書き取りにおいても無回答率が３０％を超えている。 ○日頃の学習場面では、積極的に学習に取り組む児童が多いが、反面、意欲に乏しい児童も多い。 （課題） ○基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得と、それらを活用する場面での「思考力・判断力・表現力」の育成が課題である。 ○学習状況に大きな個人差があるため、実態を的確に捉え全体的な基礎学力の向上を図ること。	・一人一台の端末等を活用した基礎学力定着に向けた授業改善	①一人一授業を実施し、基礎的・基本的な知識技能の定着と、その活用場面を意識した授業を行う。 ②各教科等のねらいの達成にどのようにタブレットの機能が活用できるか吟味し、オクリンクやムーブノート、スタディサプリを積極的に活用する。	①一人一授業後の児童の変容を見取り、その積み重ねから、個々の基礎学力向上具合を評価しているか。 ②積極的にＩＣＴを活用しているか、よい授業アンケート「ＩＣＴなどを活用して教えている」項目で肯定的な評価 80 パーセント以上になったか。				
		・「思考力・判断力・表現力」の向上に向けた授業改善	①目的や意図に応じ、理由を明確にしながら自分の考えを書いたり、伝えたりする活動の充実 ②瞬時に自分の考えを伝え合うことのできるよう一人一台の端末の有効活用を行う。	①②よい授業アンケート「児童生徒が、自分の考えや感想を「書く」時間をとっている」「児童生徒が、自分の考えや感想を「発表する」時間をとっている」項目で肯定的な評価 80 パーセント以上になったか				
2	○学校評価「学校は保護者からの相談や要望に対して、適切に対応している」の項目において、よくできているの評価は、Ｒ２…３０％、Ｒ３…１８％、児童の項目「先生に悩みや困ったことを相談できる」Ｒ２…３２％、Ｒ３…２６％　である。 ○昨年度、施設設備の不具合等が主な原因と考えられる事故は無かった。下校時のトラブルや、登下校時における安全確保（交通安全・不審者対応）に苦慮している。 （課題） ○児童・保護者の悩みに真摯に向き合い、専門スタッフ（ＳＣ、ＳＳＷ）を交え組織的にそれらにしっかり寄り添うこと。 ○児童の安全をしっかり守れるように、実態をよく把握したうえで課題に迅速に対応する。班長指導等を適宜行いしっかり見届けたり、保護者・地域と連携を強化することが課題である。	・児童一人ひとりの変化に気付き寄り添う教育相談体制の構築	①生徒指導・教育相談会の行い方を工夫し、児童の支援方法について具体的に話し合えるようにする。 ②「心と生活のアンケート」の確実な実施と迅速な対応の徹底	①毎回の委員会実施の際に、具体的な組織的な支援策が確認されたか。 ②「心と生活のアンケート」後に実施された面談結果の迅速な管理職への報告が行われたか。				
		・児童の安全を確実に守る取組の充実	①定期的な登校指導を実施し、現状を把握したうえで班長指導を行う。その後の変容を確実に見取り児童の安全を確保する。 ②学校安全ネットワーク会議や学校運営協議会において、児童の安全を脅かす現状を共有し、保護者地域の協力を得られるように協力を依頼する。	①毎月 1 回の登校指導と班長指導の実施。学校評価「学校は安全についての指導をよく行っている」項目で肯定的な評価 80 パーセント以上となったか。 ②登下校時に、教員が毎日安全指導ができない分、地域の方々の協力のもと児童の安全を守る何らかの取組が始まったか。				
3	○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿を確認した。地域全体で児童を育成するために学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか熟議を行った。 （課題） ○児童の安全を守る上で、本校教職員のみではできる範囲に限界がある。まずは、学校運営協議会においては児童の安全について焦点を当て具体的に何ができるか熟議し実行する必要がある。	・学校のことを保護者・地域の方々によく知ってもらう取組の充実	①積極的に学校の教育活動の公開を行ったり、ＨＰ等で公開したりする。 ②学校運営協議会において、本会の目指す児童像「他者や地域と豊かにかかわり、自己を高め、健やかで輝き続ける柏崎の子」の具現化に努める	①授業参観・学校公開、かしわっ子発表会等の行事の確実な実施及び行い方の工夫を行ったか。 ②学校運営協議会において、本校児童について熟議が行われ、安全についてのみならず、より児童像に迫る話題で熟議が行われたか。				
		・教員の授業準備や学習評価の時間を確保するために、地域の協力のもとでの児童の安全を守る活動の充実	①学校運営協議会の熟議の方向性を児童の安全確保の視点で重点化する。 ②学校でできること、保護者ができること、地域ができることを明確にする。	①重点化された児童の安全を確保するための取組が具体化されたか。 ②分担された役割が効果的に働き、児童の安全が確保され、登下校時の事故トラブルが昨年度より減少したか。				
4	○今年度より高学年の教科担任制を導入しているが、担当教科について、より深い教材研究が行えている。 ○一人一台の端末を活用した、個別最適化された学習について研究を進めているところである。 （課題） ○教科担任制に伴うメリット、デメリットが見えてきている。課題を確認しＲ５の完全実施に向け体制を整える。 ○スタディ・サプリ等ＩＣＴの活用方法について研修を進める。	・今年度より導入した教科担任制によるメリットデメリットを十分吟味し検討された次年度計画の完成	①毎月教科担任制に関わる担当者が集まり課題点を明らかにしその対応策について検討する。 ②本校児童の実態に正対したうえで、ＩＣＴ等を活用したよりよい授業を提供できるよう、ＩＣＴ推進部が積極的な提案を行う。	①毎月毎に開催する検討委員会にて、その都度課題が解決され、よりよい実施方法が確認されたか。また、Ｒ５年度計画ができたか。 ②ＩＣＴ推進部員が中心に、積極的に授業において一人一台の端末を活用し、その成果を広められているか。				